

北総里山クラブミーティング

2006.10.13(金). PM7:00~9:00

白井市保健福祉センター 3階ボランティア室

参加者：長谷川、米田、上西、森田、堺(義)、堺(初)、中條、鈴木、丹澤、秋井、堀澤(白井環境ネットワーク・ふるさとガイドの会)、小山(印西市ゴミと暮らしを考える会)、相馬(な)、

配布資料：・「(仮称)生物多様性ちば県戦略」タウンミーティングの資料
・環境教育にかかわる主な内容について(北総里山クラブはどこまで対応可能か)
・北総の寺子屋『言志四録・中庸素読会』
・表紙の絵について

進行：丹澤さん

1) 行政の動きなど その後の経過、

- ・白井市役所が、保全地区の計画策定にあたり、委員として長谷川先生に参加の打診あり。その後の動きは無し。
- ・白井市の都市計画課が作成した谷田地区内の企業庁用地を明示した地図(白井市分のみ)を7団体に各1枚配布。



- ・予想外に私有地が多い中で、現状を維持したまま保全していく方法としてどういう取得方法があるのか法律、制度などを研究するよう都市計画課にはたらきかける。
- ・印西市役所に、武西地区の企業庁用地の地図を作成してもらうようRCNの鈴木さん、丹澤さんから働きかけてもらう。

2) タウンミーティングについて

・配布資料をもとに背景説明(長谷川先生)

国の生物多様性戦略を受けて、千葉県(生活環境部環境政策課生物多様性グループ主導)が、「(仮称)生物多様性ちば県戦略」を策定し「千葉県環境基本計画」の見直しを図るために、《専門委員会》と県民から広く意見をとりいれる《タウンミーティング》を同時進行させていこうというもの。2006年度中に検討結果をまとめあげる。

- ・専門委員会のメンバーとして参加する長谷川は、
 - ① 印旛沼流域で具体的計画を建てること
生物多様性の具体的事例として、印旛沼流域での具体的なモデルケースである武西・谷田の自然環境保全計画を提案する。

② 外来種対策 をテーマにプレゼン(16日)の予定

千葉県全体で生きものを守ることを具体的にマップに落とししていく作業をしていくこと……等(谷田・武西ガイドブック地域地図参照)を提案予定。

・タウンミーティングの企画・開催にむけて——10.12. 県庁におけるの打ち合わせに参加——(上西さん)

来年の3月までに生物多様性ちば県戦略の策定をする為、堂本知事からの強い呼びかけで今回の実施の運びとなっている。(2010年生物多様性条約締約国会議の議長国を日本が引き受けることになったことや、もともと生物多様性、環境保全をテーマとしている堂本知事政権の集大成などが背景としてあるのでは……)



・東京電機大学などで、年内ということであれば、テーマを絞ってやることも可能。
・県職員など行政が戸惑っている印象がある中、このタウンミーティングを開催することはチャンスにもつながるが、ただあまりにも日程が押し迫っているため、コーディネートも含め課題も多い。



・16日に行われる専門委員会は傍聴可能なため、会議の内容を把握した上で判断を下しましょう。(相馬、森田、傍聴予定)

**17日結果報告会 PM7:00～ウェルプラットボランティアサロン
タウンミーティングの実施を検討していく**

3) 要望書・ガイドブックについて

○要望書の構成への意見

- ・農業的なものを入れて欲しい
- ・森のツアー、時代の紹介ツアーができるという提案
- ・専門家・研究・データコントロール機関などの要望
- ・谷田・武西がビオリザーブであることからぶれないように焦点を明確に
- ・要望書とガイドブックを分ける
- ・趣意書(背景)と要望書(県、両市へ提出するだけではなく、市民の賛同を得るための呼びかけ資料としてもらうもの)を分けて作成する。
- ・どこを守るかというゾーニングは、行政と私たちがともにやっていく作業になるので、そこまで要望書には組み込まない。

各団体が自分たちの運動線上で、谷田・武西地区でどんなことが出来るかという提案をA4紙1～2枚程度でまとめ、(それを喚起するようなイメージ写真を入れ)、10月中に長谷川先生に提出する

※この議題（ガイドブック）については、次回持ち越し。要望書構成、完成までの行程など、作業分担等、長谷川先生より再度指示を出していただく。

4) その他

○地元の方、地権者の方との対応について

- ・要望書作りが進む中で、早いうちに地元のかたとの接触をもたないところじれてしまう可能性が有るのではないか。
- ・地権者はその先祖代々からの土地に愛着を持ち、農業を続けることを選択してきた。保全地区を買い上げるという選択が低い中、ただ単に生きものを守りたい、保全したい、という要望よりも、その土地を将来にわたって協働守り、公共的な里山として残していきましょうという視点で話し合いを進めていった方がいいのではないか。

以上